

第5回豊島廃棄物等技術委員会議事録

日時：平成13年6月8日(金)10:23~14:01

場所：マリンパレスさぬき

1 開会

○ 13委員中10委員出席

出席委員

永田委員長

武田副委員長

岡市委員

河原委員

堺委員

鈴木委員

高月委員

中杉委員

門谷委員

横瀬委員

○ 傍聴人の意見

公害等調整委員会（佐藤専門委員）

調停成立から約1年経過したが、感慨深いものがある。今後とも、公害等調整委員会としてフォローアップしたいと考えている。

直島町（岡田助役） 特になし

豊島住民（安岐氏）

4月14日に廃棄物のはぎ取りが完了したことを報告する。

高度排水処理施設の中に見学者（50人程度）用のスペースを設けることを発注仕様書に盛り込むよう要望する。

2 暫定措置分科会関連の審議・報告事項

① 暫定的な環境保全措置工事の進捗状況等について（報告）

遮水壁の打ち込み深度の変更や浸透トレンチの位置の確定についての報告があり、了承された。

なお、若干予定より遅れている工種もあるが、今後全力を尽くし、全体として9月末完工に向けて作業を行うことが確認された。

浸透トレンチの位置については、午後から現地にて確認を行うことになった。

② 掘削完了判定地点の選定について（審議）

西海岸における掘削完了判定地点の選定について説明があり、了承された。

なお、午後から現地にて位置の確認を行うことになった。

③ 西海岸における地下水調査について（審議）

西海岸における地下水調査については、中間保管、梱包施設建設のための地質調査用ボーリング孔（1箇所）で採水する旨の説明があり、了承された。

なお、午後から現地にて位置の確認を行うことになった。

④ 沈砂池の放流水のモニタリングについて（審議）

沈砂池の放流水の管理については、pH、CODは連続測定し、SS、ダイオキシン等については、バッチ測定を行う。また、データは、当分の間、現場観測小屋で収集し、将来的には中間処理施設の表示システムに接続する旨の説明があり、了承された。なお、モニタリングして異常値が検出された時には、浸透トレンチに還流して対応することです承された。

また、異常値が検出された時の対応などについては、できるものからマニュアル等として整備することとし、中間処理施設のモニタ設備の整備時期などを楸クボタと十分に調整しておくこととされた。

⑤ 高度排水処理施設の発注仕様書等の作成業務について（審議）

発注仕様書等の作成業務について説明があり、示された業者の中から業務委託を行う業者を選定することが了承された。また、技術要件については、処理水量や水質、大雨、濁水等の異常時、事故等の緊急時の対応等を含めて暫定措置分科会で審議、検討することとされた。

⑥ 廃棄物等の掘削・移動に当たっての事前調査結果について（報告）

掘削・移動に当たっての事前調査結果及びその解析計画について報告があり、了承された。また、得られたデータを県の研究機関等で整理し解析することや、今後の本格掘削に役立つように解析計画外の項目についても積極的に解析に取り組むこととされた。

⑦ 掘り出されたドラム缶の内容物の調査結果について(報告)

ドラム缶の内容物の調査結果について報告があり、了承された。また、ドラム缶の内容物とVOCs ガス調査結果との関連について検討することとされた。内容物の処理の可否について委員より質問があり、㈱クボタから、「示された物質を単独で処理することは困難であるが、実際は他の豊島廃棄物等と混合して熔融処理することとなるので特に問題はないと考える。」との回答があった。

⑧ 暫定的な環境保全措置工事における作業環境管理マニュアルの策定について（報告）

作業環境管理マニュアルについて報告があり、原案が了承され、今後、必要に応じて、修正し、本格的な掘削に備えることとされた。また、壊れていないドラム缶等の内容物の取扱についても検討することとされた。

⑨ 直島町における事前環境モニタリング等調査結果について（報告）

調査結果について報告があり、了承された。三菱マテリアル㈱からは、「予定している航路整備等に併せて、同社が自主的に海底に堆積しているものを除去し、処理するという県の説明のとおりである。」との意見があった。

3 中間処理分科会関連の審議・報告事項

① 豊島廃棄物等海上輸送航行安全対策検討委員会について（報告）

航行安全対策検討委員会については、4月29日に第1回目が開催され、第2回目以降の航行安全対策検討委員会に具体的な資料を提出し、審議を行うことや審議内容については、次回の技術委員会で報告する旨の説明があり、了承された。

② 中間処理施設建設工事の進捗状況について（報告）

中間処理施設建設工事の進捗状況について、詳細設計の完成スケジュール（建て屋部分は7月末、プラント部分は11月末に完了）等の報告があり、了承された。また、7月中下旬には、技術委員会を開催して、報告するため、日程等の調整を行うこととされた。

③ 中間処理施設における前処理設備の詳細設計のための実験について（報告）

前処理設備の詳細設計のための実験について共同企業体から報告があり、了承された。また、円滑な処理ができるように、含水率の調整について、システムの中で効率的に実施できるように配慮しながら、施設の設計を進めることとされた。

④ 中間保管・梱包施設、特殊前処理物処理施設の基本設計について（審議）

基本設計の検討状況について、当初の計画段階で1階にあった見学施設が2階へ変更された経緯などについて説明があり、了承された。なお、最大見学人員についても更に検討することとされた。

⑤ 溶融スラグの有効利用研究事業について（報告）

溶融スラグ有効利用研究事業について報告があり、了承された。なお、猪熊委員とも相談のうえ、ホウ素、フッ素の取扱について検討してはどうかとの提案がなされた。

4 配布資料の取扱について

高度排水処理施設関係の業者名記載の資料については、今後の県の発注事務に直接関係することから、非公開・委員限りの配布とされ、他の資料はすべて公開とされた。

5 傍聴人の意見

豊島住民

(中地氏) 沈砂池がオーバーフローしたときの対応を検討していただきたい。

(石井氏) 高度排水処理施設の発注仕様書に見学者対応を明示していただきたい。

廃棄物の掘削移動開始後、4、5人の豊島家浦の住民が花粉症と風邪の間のような症状を訴えている。掘削との関係を心配しているので、ガス調査等を含め、対応を検討していただきたい。

(安岐氏) 豊島内施設に、見学者の研修用として、黒板、ビデオ、廃棄物のサンプル展示場所等がある部屋を1か所設けていただきたい。最大見学人員は50人にはこだわらない。40人でもよい。また、高度排水処理施設も施設内を見学できるようにしていただきたい。

豊島住民の発言内容への対応

- ・ 沈砂池の貯留水の取扱については、現場を見て検討するが、基本的には浸透トレンチに逡流することとする。
- ・ 見学者用の部屋については、中間保管・梱包施設又は高度排水処理施設のいずれかの1箇所に設ける。最大収容人数については、関係者の意見を配慮した施設の設計をする。
- ・ 健康不安については、原因を特定することは難しいが、家浦で大気測定を行う方向で日程調整をする。

直島町（岡田助役） 特になし

公調委（佐藤専門委員） 特になし

6 知事挨拶

真鍋知事から、技術委員会委員並びに豊島住民、直島町などの関係者へ、豊島廃棄物等対策事業の推進のために指導や協力をいただいていることに対するお礼の挨拶があった。

7、その他

・午後から約 1 時間に渡って暫定的な環境保全措置工事の進捗状況の視察を行い、浸透トレンチの位置、掘削完了判定調査地点及び西海岸における地下水採取のためのボーリング地点について、各委員に確認いただき、了承された。

・現地視察後、豊島公民会において豊島住民との意見交換会が行われ、委員長より「最終合意から 1 年経過し、事業も順調に進み現地も大きく変わっており、感慨深いものがある。豊島廃棄物等技術委員会としても今後とも、関係者の協力を得て共創の精神で問題の解決に取り組みたい。」との挨拶があった。その後、住民側から「学びの島構想」や「記念館の建設」についての説明あり、意見交換が行われた。